

3D映像の現状と動向、簡易制作技術について

■応用技術課 松井 洋泰

1. はじめに

家庭用3D対応テレビなどが一般に普及し、すでに数年経過しましたが「3D映像はコンテンツ不足」と言われる中で、実際に目にするコンテンツは映画等、規模や予算の大きなものを除けば、中小業界での利用はほとんどされていません。本研究では、改めて3D映像の現状や問題点について調査と検証をすると共に、中小業界においてそれらを有効活用するための方法と、現場で想定される3D映像を制作する際の技術的課題等について、調査と技術検証を実施しました。

2. 検討内容及び考察

「3D映像の現状、問題点と中小規模の3D映像制作課題について」、「3D映像制作に必要な環境(ハード・ソフト)、規格と仕様の情報について」、「簡易3D映像制作システムの構築と検証」の3つのテーマを設定して実施しました。

研究内容の詳細等につきましては、以下のホームページ(PDF)をご参照下さい。

※ホームページ(PDF)

<http://www.mtc.pref.kyoto.lg.jp/mtc/wp-content/uploads/43-10.pdf>



3. 結果及びまとめ

3D映像の現状、問題点と中小規模の3D映像制作課題について

- ①不適切な制作による映像酔い等は、各種団体のガイドラインを参考に問題解決する。

- ②3D映像の普及を妨げる要因は、家庭での「ながら見」にメガネ着用が向かない、表示方式が統一されていない、業界に3Dは失敗という意識がある等がその理由と考えられる。

3D映像制作に必要な環境(ハード・ソフト)、規格と仕様の情報について

- ①映画等では従来2台のカメラを組み合わせる方法が主流であったが、現在は業務用の3D専用カメラが登場したことで、現場で映像を確認しながらの撮影が可能になった。
②ブルーレイディスク規格を使用すれば、普及した視聴環境で3D映像ソースを供給可能。
③コンテンツの視聴場所と時間を限定することで、展示、プレゼン映像等、新たな業務用途の展開や利用が考えられる。

簡易3D映像制作システムの構築と検証

- ①家庭用3Dカメラは機能は限定されるが、安定した画角撮影により破綻の少ない撮影が可能。
②3D映像の編集環境は、3D表示機能を付加したパソコンに、3D編集対応のビデオ編集ソフト等を組み合わせたノンリニア編集が最も実用的で、映像提供用のブルーレイディスクまで制作可能。
③簡易的なシステムで制作した場合、再生機能としては単純再生のみで、メニューや映像制御機能のあるディスクは制作不可。(別途、専用の業務用制作システムが必要)
④編集作業は、制作途中の映像酔いしやすい(不快な映像の編集)作業状態で、長時間視聴しながら編集する必要があり、作業者にとって予想した以上に過酷であることが確認されました。



今回使用した家庭用3Dカメラ



3D映像の編集画面

お問い合わせ先

京都府中小企業技術センター 応用技術課 TEL:075-315-8634 FAX:075-315-9497 E-mail: ouyou@mtc.pref.kyoto.lg.jp